

令和 かわら版

第38号
諏訪形自治会
会長 水石 康

第三回 城下消防祭が開催されました

九月十九日(日)城下小学校校庭において、第三回目の城下消防まつりが開催されました。当日はあいにくの曇り空でしたが、スタッフを含めて総勢八十七名の参加で賑わいました。

今回は、城下小学校の皆さんによる金管バンドの演奏が三曲あり、保護者の方や見物の方が大勢取り囲んでいました。金管バンドは、四年生十三人、五年生二十七人、六年生一七人で、毎朝二〇分間の活動をしているそうです。九月六日に行われた東海大会で演奏した曲も披露してくれました。

各ブースのうちフードコーナーでは、第六分団OBの作った焼きそばが振る舞われ、その他はしご車試乗、放水体験、消火器取り扱い、AED取り扱い、台風一九号パネル展示、防災用品展示、フードドライブ等があり、六文戦士ウエイダーも子供たちとポーズを決めていました。煙体験コーナーは長蛇の列で、煙は本物ではなく水蒸気に香りをつけたもので無害との事です。

この消防祭りは、城下地区も九自治会と城下まちづくり未来会議の負担金及び上田市活力あるまちづくり支援事業からの支援金で運営されており、消防まつりの目的は、城下地区住民の防火防災意識の啓発を図り、体験型防災訓練の役割を果たすと共に、危機管理能力の向上を図ること、それと消防団活動のアピールと同時に、第六分団の団員を確保する事です(降旗城下消防まつり実行委員会長のあいさつより)。



役員の皆さん、立看板やテントの運搬等の事前準備や後片付け、お疲れ様でした。私も疲れましたが、一役員として、とても楽しかったです。



投稿：金井 保芳さん

秋の公民館大掃除が行われました

毎年、春秋二回行われている公民館の大掃除が、十月一八日(土)、今回の担当、第八ブロックの四五名の皆さんのご協力により実施されました。玄関、大広間、和室、調理室等屋内の清掃に合わせ、今回は外回りも清掃して頂きました。

特に多目的グラウンドの外回りの草刈りの処理も行って頂きました。天候も回復し公民館周辺の清掃、草取りは手際よく作業して頂きました。ご協力ありがとうございました。なお、来年春の公民館清掃は九ブロックの皆さんになります。

投稿：自治会長 水石 康さん
担当：管理部長 星野 晃一さん

社会福祉協議会主催の

花の寄せ植え教室がありました

十月二十三日(木)、前日の冬のような寒さから一転、気持ちのよい秋晴れの中、公民館の駐車場で花の寄せ植えが行われました。まず、社会福祉協議会副会長(民生児童委員)の細川茂子さんから花の説明と植え方を教えていただき、三十数名がふたつの班に分かれて作業を始めました。

今回使った花はピオラ、シロタエギク、クジャク草、ハボタンの四種類で、用意された鉢に敷石、土を入れた上に植えていきました。経験者の方も多く、皆さん手際が良く短時間で完成させていました。

これからの花の少ない時期に、寒さに強い花を植えたのでこれからが楽しみです。花の苗、鉢や土などの準備から、片付けまですべてやっていただいた社会福祉協議会役員の皆さん、どうもありがとうございました。



投稿：稲垣 睦さん

公民館の花壇にピオラの植え付けを行いました

諏訪形公民館では、十一月二日(土)にピオラの植え付けを行いました。ピオラの植え付けは、十月はじめに市から花苗をいただき、やや大きめのポットに移しかえてから約一か月大きくしたうえで花壇への植え付けを行います。

十一月二日(土)は小学生三人を含む十人で作業を行いました。小さな花苗で、冬を越せるだろうか、と心配になるくらいですが、桜が咲くころにはきっと綺麗なピオラが公民館の正面を飾ってくれることと思います。

なお、上田市からの秋に植える花苗の配布は、今回をもって終了するとの連絡がありました。来年度以降はどうするかについては、これから考えていきたいと思います。



投稿：諏訪形公民館長 稲垣 康史さん

諏訪形公民館文化祭がありました

十一月八日(日)、諏訪形公民館文化祭が開催されました。八日午前、公民館役員、自治会協議員、公民館活動協力員の皆さんなどが集まり、会場準備を行いました。

八日の午後から九日の午前は自治会員の皆さんの作品の展示が行われました。木彫、絵画、書道、工作、写真など多岐にわたり、力作揃いです。それぞれ素晴らしい作品で「諏訪形にはいろいろな力を持った方々がおられるんだなあ」と感じました。また、「諏訪形誌を歩く」続・諏訪形誌の展示・即売も行われました。悠生寮、グループホーム諏訪形の皆さんからも出品をいただきました。この作品展示は二日間、百人ほどの皆さんにご鑑賞いただきました。

九日の午後は「演芸の部」が開催されました。生憎の雨模様でしたが、五十人を超える皆さんにお集まりいただきました。

前半は諏訪形公民館の各クラブの発表が中心となりました。「ペルフラワーズ」の皆さんの演奏に始まり、「諏訪形おどりの会」市川健司さんの「ギターと歌」「詩吟クラブすみれ」の皆さんの発表と、熱演が続きました。

休憩後は小林照幸さんと武田信仁さんのサクソフとギターのデュオ演奏がありました。お二人は東御市を拠点に活動するビッグバンド「TNSジャズオーケストラ」のメンバーです。聴衆に合わせ曲を中心とした演奏を聴かせていただくことができました。

最後にお集まりいただいた皆さんで「諏訪形讃歌」を歌って終了となりました。ご出運びいただいた皆さん、たいへんありがとうございました。



「かわら版」で活動を紹介しませんか

「諏訪形 令和かわら版」では諏訪形自治会内のいろいろな行事や活動に際してはできるだけ取材を行い、紹介するように心がけてはいますが、私たちの知らないところでまだまだ多くの皆さんがいろいろな活動をされていることと思います。そこで、各団体の活動の紹介、対外的な活動やメンバー募集など、また、スポーツ系などの団体では団体内のイベントや対外試合の結果など、諏訪形の皆さんに知っていただきたいことを「かわら版」で紹介していただませんか?各団体の皆さんからご投稿をお待ちしています。

ご投稿いただく方法は
1 メモを諏訪形公民館北壁の「自治会ポスト」にいられていただく。
2 次のeメールアドレスにメールをお送りいただく。
data@axel.ocn.ne.jp
のどちらかです。

かてりやの会・諏訪形公民館共催 講演会・人権講座が開催されました

十月二十五日(土)に行われた講演会は、稲垣公民館長さんの計らいで「人権講座」として開催することができました。これは、かてりやの会の講演会では初めてのことであり、たいへんうれしく、今後の活動にも力が入る事と期待しております。

講演会当日は、ちょうど荒神宮の例大祭と重なり、参加者が減るのではないかと心配していましたが、会員以外の自治会員・自治会の正副会長・社会福祉協議会長・城南公民館・城下地域包括支援センターの方々など、総勢三十二名の皆さんにご参加いただき、盛会となりました。

講演会は

- 第一講 「手話で話してみよう」 稲垣康史手話通訳者
第二講 「認知症と成年後見人制度」 金井保芳AFP認定者

の二部構成とし、それぞれの講師からわかりやすく、丁寧にお話をして頂きました。

第一講「手話で話してみよう」

講師：稲垣 康史 さん (諏訪形公民館長)
長野県および上田市に登録されている手話通訳者
上小手話サークル会員 手話歴四十六年

最初に手話とは、音声の代わりに身振りや手ぶり、動作などを使って意思や感情を相手に伝えるものとお話があり、耳が聞こえないという理由で長い間様々な差別を受けてきた方々の歴史についてお聞きしました。

旧民法では、ろう者やその他の障害を持った方を「準禁治産者」とし、補佐人を付けないと重要な契約が出来ないような状況に置いていました。全国の運動団体の皆さんの長年の運動で「ろう者、啞者、盲者」の部分が削除されたのは昭和五十四年だったそうです。それまではたまため力があったても弁護士、医師、薬剤師などにはなれなかったのです。社会全般の意識の高まりで、耳の聞こえない方々も暮らしやすくなってきたとお話してはありましたが、自分が気付かずに曇った鏡で見ていることが無いか振り返ってみたいと思います。

次に、「簡単な手話をしてみましょう」ということで、春、夏、秋、冬、明治、大正、昭和、平成、令和、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん等の手話を教えていただきました。参加された皆さん、覚えていらっしゃいますか？それぞれの手話の動作には意味があり、時代とともに変化もしているし、地域によっても違いがあることを教えていただきました。

色々な障害を持った方が何の隔たりもなく私たち地域の活動に参加していただけるためには、まず自分たちが率先してそれぞれの障害に対する理解を深めていく必要があると感じました。

第二講「認知症と成年後見人制度」

講師：金井 保芳 さん
日本FP協会の試験に合格したAFP認定者
(認定年度二〇〇一年)



大きな画面に参加者に配付した資料と同じものを投影し、わかりやすく説明して頂きました。

開口一番に、認知症は遅かれ早かれ、いずれ誰でもかかる病気だということを知ってくださいと言われ、皆さんドッキとしました。自分が認知症になった場合、親族はどうしたらよいのでしょうか？

いろいろな手続きを本人に代わってする『成年後見制度』がありますので、さっそくこれを利用すれば良いと考えがちですが、この制度ができてから二十五年経過しており、いろいろな問題が出てきているので、この制度を利用する場合は、よく考えてからするとの話でした。

その理由としてお話し頂いたのが成年後見人制度のデメリットでした。

- ① 家族がほとんど後見人になれない。
(およそ八割が専門家)
- ② 毎月二〜五万円の報酬の負担がある。
(本人の財産によって差が出る)
- ③ 財産管理の厳しい制限がある。
(本人の財産が減少する行為は原則として認められない)
- ④ 途中解約できない。
(本人が亡くなるまで契約解除できない)
- ⑤ 申し立てから選任まで2〜4か月かかり、その間は必要な支払いなどができない。

このようなことから、認知症になる前にやっておきたい事として

銀行等の事前対応

- ① 本人の財産をできるだけ減らす。必要に応じて贈与する。
(これは成年後見人の報酬が本人の財産に応じて決まってくる事もあるため)
- ② 定期預金を解約して、普通預金にしておく。
(定期預金を解約するには、本人の意思確認が必要になるため)
- ③ 投資信託は解約する。
(契約を解除するには、本人の意思確認が必要になるため)
- ④ ATMの支払い限度額の確認をして、必要であれば一日の引出限度額の増額をしておく。
(七十歳以上になると引出限度額に制限がかかるため)

保険金受け取りのための事前対応

- ① 指定代理請求人(配偶者・子供など)を事前に登録あるいは変更する。
 - ② 死亡保険金受取人(相続人)を事前に登録あるいは変更する。
- などを、講師ご自身が実践したことを例に上げながら説明していただきました。

最後に「認知症になった時の対応は複雑なので、気軽に相談のできる、上田市高齢者介護課や近くの地域包括支援センターへ足を運んで下さい」ということで、講演を締めくくって頂きました。

今回の講習会は両講師とも、事前に資料を調べられ、分かりやすくお話をしていただきました。紙上をお借りして御礼申し上げます。また、講演会に参加して頂いた皆さん、本当にありがとうございました。これから「かてりやの会」へのご協力よろしくお願い申し上げます。



当日ご参加いただいた皆さんの感想など(アンケートから)
ご参加いただいた三十二名中、二十六名の皆さんにご回答いただきました。

・本日の講座は非常にためになった二十二件、ためになった四件

・稲垣さんのお話はとても分かりやすく、楽しい講座でした。再開催を希望します。「ふるさと」が手話付きで歌えると素敵ですね。
・聴覚障がい者の方への接し方に不安を抱えていましたが、手話を教えていただき身近に感じました。障がいを持った方も、地元の活動に参加できるような社会になっていけばよいなと思いました。

・認知症と成年後見制度は、身に迫る話で今後真剣に考える必要があると思いましたが、話の内容が複雑でよく分かりませんでした。家に帰って資料を見直したいと思います。

投稿：諏訪形シニアクラブかてりやの会

会長 大林 正樹さん
副会長 小林とみ子さん

第三回信州・東信スポーツ吹矢 交流会に参加しました

十月二十四日(金)、青木村総合体育館において「第三回信州・東信スポーツ吹矢交流会」が行われ、諏訪形シニアクラブかてりやの会の「スポーツ吹矢クラブ」からも七名が参加しました。

この交流会は、かてりやの会の会員でもある「有賀西夫準師範」が、三年前から苦勞されて企画実行してきている会で、当クラブも第一回大会から参加しております。今回は上田市内の十の支部・クラブに加え、飯山市と長野市からの参加者もあり、総勢九十名の開催となりました。

交流会は六メートル、八メートル、十メートルの三部門で行われ、当クラブからは、ハメートルに六名、十メートルに一名が参加しました。

クラブ員は、日ごろの練習の成果を発揮し、健闘しました。中でもハメートルに出場した宮下範子さんは、五十名中六位に入賞しました。宮下さんは昨年もハメートルの部門で準優勝をしておりますので、二年連続の快挙でした。おめでとうございます。益々の精進を期待しております。

スポーツ吹矢クラブでは有賀西夫準師範の指導を受け、毎月第二・四曜日の午前九時三〇分から十一時まで練習を行っております。「楽しくなければ吹矢ではない」をモットーに和やかな雰囲気練習に励んでおります。皆さんの入会をお待ちしております。

投稿：諏訪形シニアクラブかてりやの会
吹矢責任者 大林 正樹さん

